

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 加納小学校

校長名 岩佐 優

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	指導と評価の一体化を推進し、他者の意見を取り入れたり、他の方法を試したりと、主体的な学習活動の中で、「実践力のある子どもの育成」に向けた授業改善を行う。 地域の歴史・文化について触れる機会を取り入れ、地域の人・もの・ことからよりリアルに学ぶ活動を行う。	B	「自己選択と自己評価のある授業」を合言葉に、自己調整力と自己評価力の育成につながる学習評価の在り方を研究し、授業改善を図った。また、高学年を中心に、子ども自身の生き方を見つめることができる行事および教育課程の見直しを図り、中学校への接続を図った。また、学習活動に、人物や実物から五感を使って学ぶ活動を位置付けるようにした。	加納に伝わる歴史や文化などを授業に取り込む流れは、非常にいい。書物、ネット、ご家族の話、地域の方の話など、様々な角度から情報を知ること、子どもの心に響き、加納への愛着が湧き、一人一人の生き方に反映するのではないかと。校長の明確なビジョンのもと、教師が主体的に研究を進める姿勢が素晴らしい。	・指導と評価を一体的に行うことで、各教科および特別活動等において、子ども達の主体性を育て、力をつける方途について成果をまとめ、提言を行う。 ・総合的な学習の内容と系統を大きく見直し、6年間の学びにより加納への誇りをもち子ども達に志を育てるカリキュラムをデザインし、実践する。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	地域の教育力(加納幼・加納中、岐阜豊、地域人材等)を生かした学習活動の推進(人材バンクの活用)を行う。幼小中の滑らかな接続を行うため、子ども同士の交流や、夏の職員研修や研究授業への参加など、職員研修を積極的に行い、互いの教育内容、教育活動を知るための機会を充実させる。	B	幼・小・中の連携を図り、児童同士の交流活動や、職員同士の学び合いを積極的に行った。特に、職員同士の交流は、異校種への理解と、それぞれとの接続を意識し取り入れる機会となり有意義であった。地域の名人(昆虫・天文・助産師など)から学ぶ機会を位置付け、普段できない体験や深く学ぶ機会を得ることができた。	多様な業務に務めながら、幼稚園教育をみて学ぼうとする姿勢や、教育観、内容、具体的方途を検討し、滑らかな接続を目指すとする姿勢が素晴らしい。地域内の学校連携・交流については、今後も推進されるべき。校種を越えて関係を築くことで、人間関係の構築、心の結びつきから、お互いの生き方や考え方を学ぶことができるのではないかと。	・作成したスタートカリキュラムおよび架け橋プログラムを第1学年で実施し、幼小の滑らかな接続プログラムの有効性について検証と改善を行う。 ・キャリア教育の一環としての宿泊学習の見直しと改善を行い、中学校との滑らかな接続ができるようにする。 ・地域人材を有効活用する計画を立てる。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	職員間のコミュニケーションを大切にし、各分野の研修による「職員の指導力向上」と、ICTの活用などによる「業務のスリム化・効率化」の、両輪を目指す。 学校の教育目標の具現化に向け、職員の、学校経営に参画する意識を醸成し、OJTが活性化されるような組織の編成と見届けを行う。	A	研究校・研修校・教育実習校として、教科や特別活動などにおいて主題を設けて研究し、日常から協働的に学ぶ職員集団として、自然にコミュニケーションを求める姿が広がった。子ども達が、地域への誇りをもてる総合的な学習の時間を創造するために、地域の人、もの、ことについて研修する機会をもつことができた。	教師の持ち味が生かされる仕組みが整っており、組織としてうまくいっている。望まれる対応の増加に比例する人員が配置されない以上、業務の合理化は進めていかざるを得ないことは理解できるが、児童の学力等の低下にならないことを望む。教師が心地よい環境で過ごすことが、子どもにも良い影響を及ぼし、少しでも早く子どもの異変に気付くことにもつながる。	・日課の充実と見直しを図ることにより、職員の最終退校時刻の見直し、業務の効率化、会議の精選を行い、働き方改革を更に推進するとともに、職員間のコミュニケーションを更に促進し、働きがいのある職場を目指す。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	いじめ・不登校等の未然防止と早期発見・早期対応に努め、職員や児童の意識を高める。多様な人と関わり、思いやる心を育てる。 地域と共同して非常災害時の訓練等を行い、災害時避難ルートの安全確保、保護者への引き渡しについて、想定範囲を広げる。	A	定期的にいじめを見逃さない取組および人権の取組を行うことを通して、互いのよさをみつめ、自己肯定感の素地を養うことができた。また、給食の時間などに、日常的に行われる養護教諭・栄養教諭の講話や、地域との合同訓練等によって、健康に関心をもったり、災害時の行動の仕方について考えることができた。	いじめ防止、不登校への対策に、大変よく行っていた。防災については、今後、災害種別での座学もあるとよい。子ども発信の運動会が行われるなど、学校目標を具現化する素晴らしい取組が行われている。美しい心見つけ(よいことみつけ)が行われ、子どもの自己肯定感が育まれる取組がよい。	・学年毎や全校で行う防災教育を明らかにするなど、6年間の計画を見直し、系統的に実施できるようにする。 ・ここタン、いじめのアンケート、心と体のアンケートや講話の、意図的計画的で有効な実施について、全体計画の見直しを図る。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	教育および財務環境について、複教職員によるチェック機能を強化し、適正な会計業務の執行と備品管理を行う。 児童の安心・安全を最優先にし、安全点検、修繕、修繕要望を行う。	B	複数点検による財務事務の強化を行い、適正に予算を執行することができた。安全点検・遊具点検を確実にし、職員の危機管理意識を高めたり、危険箇所について、修繕をしたり要望を出したりすることができた。児童の環境美化、学習環境整備について、PTAの協力を経て、願いを共有することができた。	財政を考えると、業務と同様、必要なものの絞り込みによる合理化は当然の流れ。可能なものはどんどんPTAに相談いただくのが良い。タブレット端末の教育効果は理解できるが、対面、五感を用いた体験活動のバランスが重要。端末使用による視力の低下も心配である。門の構造上、子どもの飛び出しの目立つ箇所がある。対策を。	・子ども達の心を育てる「美しい環境」づくりを行うための、組織の見直しと計画的な予算執行、修繕及び営繕計画を立てる。 ・五感を働かせる活動とタブレット端末の有効性のベストミックスを追求した教育活動のあり方を考える。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/kanou-e/>